

慶應義塾経営管理学会 出版・投稿要領

1. 原稿は、編集委員会の依頼する匿名レフェリーによる審査を受ける。このとき、記述の修正が求められる場合もある。
2. 原稿は日本語または英語とする。日本語原稿は、400 字詰原稿用紙 50 枚相当、英語原稿はダブル・スペース、A4 版使用、7,500 語相当の分量を基準とする。いずれも表紙、要旨、本文、謝辞、注、参考文献、図表、および執筆者紹介等を含んだ分量である。
3. 原稿は、MS WORD で保存した CD および USB メモリで 1 部、ハードコピーで 3 部提出する。表紙を除く原稿の全ページについて、ページ番号を連続して打つ。太字、斜字等の文字種類や印刷上の注意は、ハードコピーの 1 部に赤字で明記する。
4. 原稿は、表紙、要旨、本文、(謝辞)、注、参考文献、図表、執筆者紹介の順で構成する。
5. 表紙ページには、次の内容を記載する。
 - (a) 表題
 - (b) 執筆者の名前、所属
 - (c) 連絡先住所、電話番号日本語原稿、英語原稿ともに、日本語文で 1,000 字程度と英語文で 350 語程度の 2 種類の要旨を作成する。英語文要旨には冒頭に、表題、執筆者の名前、所属を英語表記する。
6. 図表は、「図」(英語では“Figure”)と「表」(同“Table”)とに分け、それぞれ通し番号と標題を付ける。

<例:日本語> 図1 日本企業の知的財産権組織

<例:英語> Figure 2 R&D Productivity

<例:日本語> 表 3 川崎重工業の事業部門

<例:英語> Table 5 U.S. Oil Price

図表は本文とは別のページに1図表 1ページに分けて記載し、図表の挿入箇所を本文に明記する。
7. 英字および 2 桁以上の数字は原則として半角で打つ。数式、数値の記述は、通常のシンボルを利用し、特別なシンボルは利用しない。なお、数式等については、一般の専門誌に利用される通常の約束事をこの原稿にも適用する。日本語原稿については、句点は「、」、読点は「。」を全角で打つ。
8. コメント、助言、研究資金等への謝辞、または報告全体に係わる注で後注とするには、適当でないものは、本文の後、注の前に謝辞として、アスタリスク(*)をつけて配置する。

9. 本文に関する注は、本文の後に配置する後注の形式をとり、下記のスタイルを取る。注番号は、算用数字で連続して付ける。

<例>

【注】

- ① 本章の記述のうち、最近のアメリカにおける制度の変更について、尾崎英男氏の示唆を受けた。
- ② 詳細の解説については、たとえば尾崎英男『日本企業のための米国特許紛争対応ガイドブック』日本機械輸出組合、1991年を参照。
- ③ ヘンリー幸田『日米特許紛争スーパーマニュアル』 発明協会、1992年、63ページ。
- ④ 尾崎英男、前掲載、85－86ページ。

10. 参考文献は正確に記載し、例示するようなスタイルとする。日本語文献と外国語文献に分けて記載し、英語以外の外国語文献も英語文献に準じて記載する。外国語書籍については、斜体とする。

<例:日本語>

児玉文男 「知的所有権部の戦略 4 新日本製鐵株式会社 知的財産部」『発明』第87巻5号、発明協会、1990年、44－76ページ。

高橋明夫 『日立の特許管理:企業の未来を拓く特許とその戦略的活用』 発明協会、1983年、153－156ページ。

野中郁次郎、加護野忠男、小松陽一、奥村昭博、坂下昭宣 『組織現象の理論と測定』 千倉書房、1981年。

<例:英語または英語に準ずる文献>

Burkan, Hervert G., “Litigation Management and Cost Control: The Client Experience,” 177-185 in Patent Litigation, 1989. Practicing Law Institute.

Poster Barry, “What Takes to be a Good Project Manager ,” *Project Management Journal*, March, 1987, Vol.34, No.1, pp.123-145.

Thamhain , H.J. and D.L .Wilemon, “Criteria for Controlling Projects According to Plan,” *Project Management Journal*, June, 1986. Vol.53, No.2, pp.75-96.

11. 執筆者紹介には、著者名(ふりがな)、所属、専門分野、主要著書・論文を掲載する。